

# 距離 30km アップ 1000m

日本ロゲインチャレンジ 2002

2002年9月15日 長野県菅平高原

制限時間 180 分。広大な菅平高原全域にばら撒かれたコントロールを目指して、アスリートたちが、ファミリーが力を、技を競ったロゲイン大会。

そこは普段のオリエンテーリング大会では見られない不思議な魅力があった。

## 最高標高を目指せ！

菅平高原は中心地の標高が一番低くてほぼ標高 1250m。コントロールが置かれた最高地点は山頂の 1650m。気合の入った参加者は最高点が稼げるポイントを目指して山頂を目指したコース取りを選んだ。

制限時間 180 分のスコアオリエンテーリング形式。トップ選手は距離にして 30km、登坂距離にして 1000m を走ったそうだ。

しかしこれだけかけてもすべてのコントロールを巡る事ができないほどの広大な範囲にコントロールが多数配置されている。

日本ロゲインチャレンジ 2002 菅平高原大会では、多くのオリエンテーリング愛好家に混じって、山岳耐久レースやマウンテンバイクで活躍するアスリートも多数参加して、広大な菅平高原を右に左に駆け抜けた。

## ロゲインとは？

ロゲイン (ROGAINE) とは、ロゲイニング (ROGAINING) とも呼ばれ、オーストラリア発祥の大規模スコアオリエンテーリングのような競技。主にオーストラリア、アメリカ、カナダなどで盛んに行われ、チェコでも世界選手権が開催されるなど盛んのような。

しかしながら、競技が行われている国は非常に少なく、ここ日本では今までに開催されたという話はない。今回の菅平高原で行われるロゲイン大会は、日本初と思われる。

フルロゲインは、制限時間が 24 時間となる。この 24 時間に地図上に示されたチェックポイントをどれだけ多く集めるかが勝敗の鍵となる。



あらゆる装備で耐久レースに望む (羽鳥氏)

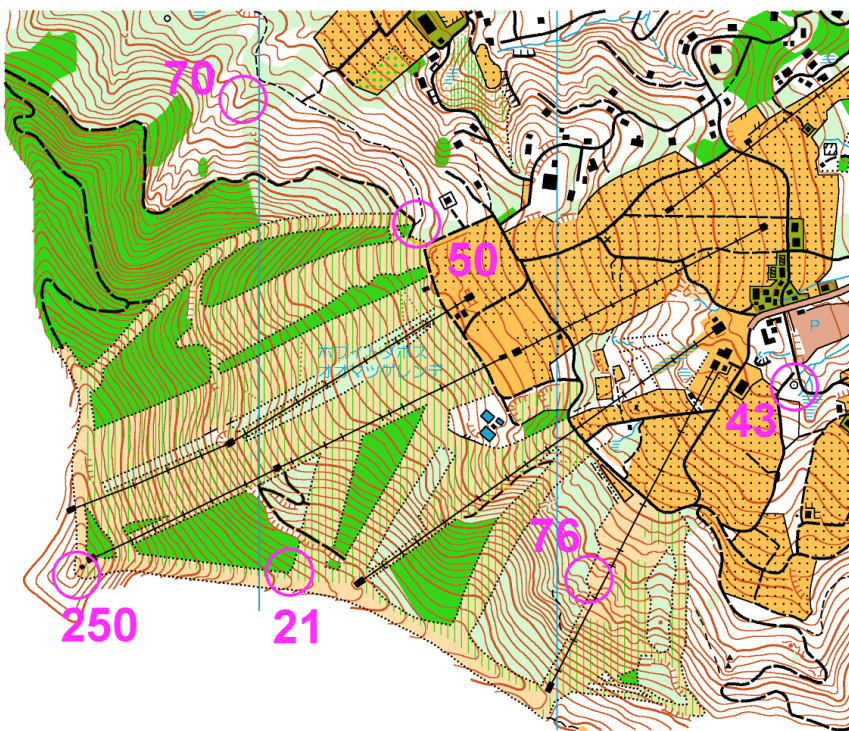
地図の範囲も広大で、フルになると新聞 1 面ぐらいある大きな地形図 (2 万 ~ 3 万分の 1 スケール) に万遍なくチェックポイントが散らばっている。各チェックポイントには通常得点が付いており、取ったチェックポイントの合計得点の多い順に順位がつく。そのため、どのチェックポイントを取るか作戦を立てることが重要になってくる。なお、優勝者でも時間内に全てのチェックポイントを取ることはできないようにポイントが設置される。

フルロゲインのほか、ハーフロゲイン (12 時間)、クォーターロゲイン (6 時間)、今回の大会のように 3 時間というお手軽なミニ版もある。また、クラスが「ジュニア」(20 歳以下)、「一般」(ベテラン) (40 歳以上)、「スーパーベテラン」(55 歳以上) と年齢により分かれており、子供からお年寄りまで楽しめるスポーツとなっている。

1 分、1 秒を争って走りまくるエリートロゲイナーから、お弁当持参の宝探しハイキングレベルまで幅広く参加者がいることもこの競技の特徴である。

使用できる機器は、主催者から渡される巨大地形図とコンパス。ただし、24 時間ということは、夜間もあるわけだし、仮眠を取りたくもなるし、食事もとらなければならぬ。ヘッドライトや食事などはリュックに詰めて運ぶ。基本は、安全上の理由により 2 名以上のグループで競技する。グループ内での役割分担や意志疎通が勝敗の鍵になることは言うまでもない。

(今回主催者の web ページに掲載されている説明よりかなり引用)



今回のロゲインコースの一部

山頂が 250 点の高得点のコントロール。このハイスコアを目指して子供から山岳耐久系ランナーまでが標高 1650m を目指す。通常のポイントオリエンテーリングでは決して使用しない、地図範囲に多数コントロールが配置されていて、こうした範囲を担当した地図調査者は「初めて使ってもらった」と感激もひとしほ。



## こどもも 180 分にチャレンジ

バリバリのアスリートから子供まで同じコースに挑戦できるのが、スコア形式競技のいいところ。オリエンテーリング日本チャンピオンの村越氏も、筆者・木村の子供で小学生のトモヨシ君も、山岳耐久レース長谷川カップの優勝者・大内氏も、渡されるのは同じ地図、そして同時スタート。それぞれの参加者がマイペースで180分に挑んだ。

ファミリーで参加された目黒氏は、小学校2年生と4年生の2人の子供を連れて、最高得点の250点を実際に獲得したというからオドロキだ。



スタート前、元気なトモヨシ君(8歳)  
180分のレースを飽きることなく走った。

今回の成績を見ると、いつものポイントオリエンテーリングの成績と少し違う順位がついていることに気付く。やはり180分のレースでは、90分のオリエンテーリングレースとは違う能力が問われるようだ。

もっと長い時間をかけて競うロゲイン競技になると、装備の違い、給水や給食のタイミング、スペシャルドリンクの内容などの戦略なども大きく効いて来るだろう。



スタート前に健闘を誓う  
地元・長野からの参加者(加々美/金田)



山岳耐久レースでは上位常連の大内氏  
スタート前、初めてのロゲインに意欲満々

## また挑戦したい!

本誌「オリエンテーリング道場」でもおなじみの松澤氏も、いつものオリエンテーリングと違うせいか、順位は18位といまひとつ振るわなかった。その松澤氏にロゲインの感想を聞いてみた。

「スコアOLは難しいのヒトコトです。結果的に5分制限時間に間に合わず250点も減点されてしまいました。丁度一番高得点のコントロール分の得点分を減点で吐き出したことになり、残念です。

もっともこれが無くても5位に入っていない状態です。なんだか山を走ることには満足してしまった感じがありますね。これが反省点でした。思いのほかレベルが高かったです。

来年は6時間ロゲインがあるかもしれないという話ですのでまたは是非チャレンジしてみたいと思います。」

最近のオリエンテーリングシーンは1:10,000縮尺の地図がもてはやされるなど、ナビゲーションスキルを重視する傾向にむかいつつある。ロゲインはそうした流れとは別の方向を目指した競技である。

広大な山野を跋涉する楽しさ。自然にマッチしたペース配分。そして自分だけが描く自分だけの軌跡。

今回の参加者はロゲインの心地よさを感じたに違いない。そして心の底できっと同じことを思っている。

「また挑戦したい!」

## 来年は6時間ロゲインか?

先ほどの松澤氏のコメントにもあるとおり、主催者のチーム白樺ではさらに長時間のロゲイン大会を計画しているという。

今回使用した菅平高原全域の地図に加えて、今年の秋にリメイクされる全日本リレー/インカレショート用の地図の範囲を加えてますます広大な範囲を競技に使う予定だという。

あまりにも広大な範囲を使用するため、運営準備はとて大変だと思うが、もし実現すれば、今回の評判を聞きつけた多くの参加者が集まるのではないかと思う。

(木村佳司)

## 日本ロゲインチャレンジ2002 菅平高原

- 成績 -

### 一般

1	柳下大	Forester	2279点
2	加賀屋博文	渋谷で走る会	2271点
3	安齋秀樹	アトレチコアルプス	2201点
4	奥村理也	ウルトラクラブ	2149点
5	村越真	静岡OLC	2099点
6	菅原琢	多摩OL	2087点
7	諏訪高典	FRUN	2073点
8	禰洲拓	東北大OLC	2043点
9	高橋善徳	つくばROC	2028点
10	富田吉郎	館林OLC	2001点

### ジュニア

1	山村周平		1245点
2	関谷茂樹	東北大OLC	1179点
3	南茂哲也	岩大OLC	1096点

### ベテラン

1	桑原茂夫	ニッパツ	1687点
2	清水潔	横浜OLC	1542点
3	伊藤誠厚	三重県庁OLC	1515点

### スーパーベテラン

1	尾上秀雄	サン・スーシ	1600点
2	高橋義広	京葉OLC	1263点
3	笠井泰自		1263点

### ファミリー

1	古澤ヒロシ	つまいOLC	1090点
2	目黒一夫		783点
3	小比賀健司	つくばROC	774点